

令和7年3月定例会 一般質問 野口昌史議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「第五次香芝市総合計画における人口ビジョンについて」

○野口昌史 皆様こんにちは。

議長のお許しをいただきましたので、日本維新の会、野口昌史、一般質問をさせていただきます。

昨年5月に補欠選挙でこちらに送り込んでいただきましてからたった10か月でございますが、所信の挨拶も含めてこの壇上には5回立たさせていただいております。そんな新人の議員なんですけども、先輩方を差し置いて、またこの一般質問の大トリを務めさせていただくということは、本当、甚だ僭越でございますが、これもくじ運ということでご容赦いただきたいと思います。

また、ちょっとこれはまだ早いんですが、今期を最後に議員を引退される方がいらっしやるとお聞きしております。長きにわたり香芝市政あるいは議会のために尽力されたことを本当に感謝申し上げます。

それでは、本題に入ります。

我が国では、少子・高齢化が大きな社会問題となりまして既にかかなりの年月がたっておりますが、いまだに有効な施策がほとんど行われず、様々な問題に直面しております。この香芝市におきましても、2021年以降は人口微減傾向にあり、ほかの市町村の例からも、一旦人口が減少に転じると、そのスピードは加速的に増えるケースが多く、早めの本当に対策が急務であります。

少子・高齢化問題につきましては、私は以前より問題意識を持っており、つい最近、私は大学のレポート課題で論じることもあって、詳しく調べたんですけども、そうそうたる識者の方が解決策を考えているにもかかわらず、これだという決定策は見つかっておらず、非常に難しい問題であるとは認識しております。

そのように国が、あるいは多くの先進国がいまだに有効化策を見いだせない現状で、この本題を市議会に取り上げるのかとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はこの問題に取り組んでいる中で、この問題というのは国主導で県や市町村に下ろしていくという問題ではなく、逆にそれぞれの地域で問題に対応して考えるべきではないかと考えております。都市部には都市部の問題があります。郊外には郊外の問題があるように、この香芝市におきましては香芝市の問題があるはずでございます。もちろん予算のほうは、やっぱり国や県の補助をいただく必要はあると思います。

この以上のことを踏まえまして、香芝市の人口動向についていま一度検証し、問題点を見

いだし、具体的な施策の展開につながることを期待し、私質問させていただきたいと思います。

前置きが長くなりましたが、まず初めに大項目1番といたしまして、第五次香芝総合計画での人口ビジョンについて伺いしたいと思います。

香芝市の在り方を決める根幹である第五次香芝市総合計画におきまして、全ての方針のベースとなるのは人口の将来ビジョンであります。すなわち、その香芝市における人口の将来ビジョンによって、本市の将来像が決定づけられるということだと考えます。また、先日、本会議中、総括質疑で筒井議員が触れられていましたように、やはりこの人口ビジョンというのは非常に大切な重要な問題と考えます。

そこで、私の最初の質問といたしまして、令和6年度で第五次香芝市総合計画前期基本計画が終了いたしますが、当時の見込みと現状を比較することは、次の計画を立てる上で非常に重要なプロセスであります。現行の前期基本計画における人口ビジョンの内容はどのようなものかをお伺いし、壇上からの私の質問とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○市長公室長 前期基本計画の人口ビジョンにおきましては、平成27年の人口データに基づきます国立社会保障・人口問題研究所、一般的には社人研と略して言われている研究所の推計に準拠した推計を基にしまして、自然増減については、合計特殊出生率が令和32年までに1.8まで上昇するとし、社会増減については、30歳代の転入が多い傾向が続くとして、令和42年に約7万人の人口規模を維持するとして設定しておりました。

○野口昌史 ご答弁ありがとうございます。

令和42年に7万人。すなわち計画を立てられたときから40年先を見据えられていたということですね。もちろんこれは総合計画ということでございますから、このぐらい先のビジョンを持つことは必要だと思いますが、それにしてもやっぱりしっかりと先のビジョンを見られているということはすばらしいことだと思っております。この7万人というこの数字については、後ほど触れることにいたします。

では、2問目の質問に参ります。

前期基本計画の結果はどのようなものだったのかお教えてください。

○市長公室長 この人口ビジョンは、社人研の準拠推計に本市独自の自然増減と社会増減の条件設定を行うことで作成しております。社人研準拠推定同様に5年ごとでの推計値を算出しておりますので、4年経過時点での公表値はございませんが、傾向といたしましては、令和元年以降、人口ビジョンを下回って推移している状況となっております。

○野口昌史 ありがとうございます。

予想どおりというか、今国が現状、有効な手だてを行えていない現状、やっぱり下振れは仕方ないということでしょうかね。

次に、3問目の質問に参ります。

それでは、その結果を踏まえた香芝市の人口動向についてはどのように捉えておられる

でしょうか。

○市長公室長 人口動向についてでございますが、本市の総人口につきましては、令和2年まで増加傾向で推移してましたが、令和3年以降は減少に転じております。この主な要因といたしましては、転入の減少による社会減の影響が大きく、特にこれまで人口を増加させてきた生産年齢人口及び年少人口の減少が進行していることによるものでございます。人口減少及び少子・高齢化の進行は、地域経済や市税等の減少による行政運営への影響などが考えられるため、人口増加につながる取組が重要であると考えております。

○野口昌史 ありがとうございます。

今お答えいただきましたように、令和3年以降は減少に転じており、主な要因についてもしっかりと内容を分析されているようなので、私はこのしっかりと分析されているということが、本当に非常に重要だと思っております。後でもお話しさせていただきますが、もしこの香芝市、本市に特有の事情があるなら、それをしっかりと分析し、そして問題をあぶり出し、対策を講じる、このプロセスのための本当に大切な一歩であると思います。いわゆるPDCAサイクルと呼ばれるものだと思います。

それでは、次の質問に移ります。

それでは、人口動向に関してさらにもう一つお伺いいたします。

本市では現状、若者の転出超過が大きいですが、その理由と何らかの対策を検討されているのか教えてください。

○市長公室長 本市におけます純移動を年代別に見てみますと、男性、女性ともに10歳代から20歳代前半までにかけて転出超過となっており、進学や就職のため若者が流出していることがうかがえる状況でございます。本市といたしましては、若者の一定程度の大都市圏への転出についてはやむを得ない部分もあると考えますが、一度市外に出た若者が本市に戻ってきて定住したいと思えるような、魅力あるまちづくり施策を展開していく必要があると考えております。

○野口昌史 ありがとうございます。

やっぱり進学や就職のために一旦香芝市から出られるという方は、一定数おられると思います。私も子供が3人おりまして、もう3人とも社会人なんですけども、長男と娘は東京に行っておりますし、次男は堺に住んでいるという状況で、本当にお答えいただいた理由の一つに当てはまっているんだなと思っております。

それでもうちの子供に言わせると、本市に戻ってきて定住したいと思えるようなというようにここにきて、東京のほうが予算があって、子育て施策も充実しているよなんて言われまして、これは香芝の議員としては何とかせねばと思う次第でございます。

次に、5問目に移ります。

本市におきまして、人口ビジョン達成のため、人口減少を食い止めることにつながる施策はどのように行われてきたのか教えてください。

○市長公室長 本市におきましては、妊娠期から乳幼児期の切れ目ない支援として、育児相

談や地域での子育て家庭の交流機会の創出など支援制度の充実を図るとともに、雇用創出に係る企業支援などを実施してまいりました。また、定住人口増加の誘因となる交流人口の増加を目的として、本市の魅力を多くの人に伝えるため、地域ブランドや葛城地域での広域観光をはじめとしたシティプロモーション事業を進めてきたところでございます。

○野口昌史　ご答弁ありがとうございます。

本市におきましても、日本全体の人口が減少するからといって、国や県任せだけでなく、何も対策を取ってないというわけではなくて、いろいろと考えられておられるということが分かりました。ただ、冒頭で述べましたように、人口減少を食い止める決定打となる施策はなかなかすぐに見つかるものではございません。しかしながら、こうやって幾つかの施策を行うことによって、人口減少の幅が少しでも緩やかになっているということは間違いのないと思います。引き続きよろしく願いいたします。

それでは、6問目に参ります。

国勢調査のデータから、本市は昼夜人口の比率あるいは市内就業率ともに、奈良県、ほぼ下位なんですけども、雇用創出についてどのような施策を検討しているのかお教えください。

○市民環境部次長　本市では、香芝市企業立地推進条例によりまして、香芝市民を雇用した事業者に対しまして雇用促進補助金を支給しているほか、市内中小企業の設備投資や特許取得等に対する補助事業を実施しております。企業の競争力の向上及び雇用創出を図っておるところでございます。また、さらなる雇用機会の拡大のため、創業支援アドバイザー派遣制度や香芝市商工会と連携した企業セミナー香芝みらい塾などの創業支援策を実施しているところでございます。

○野口昌史　ありがとうございます。

質問4にも関連しますが、この国勢調査などのデータより、香芝市では市民の皆さんはやっぱり昼間は市外に働きに出ていることが多いということが分かりますし、あるいは市内にやっぱり働く場所が少ないのではないかとということが分かると思います。それに対して、香芝市のほうでも、今お答えいただいたようにしっかりといろんな施策を行われているということを、それに加えましても、この状況から、やはり市民の皆さんからも、いやあ、もっと香芝市内で働く場所があったらいいのになという声はよくお聞きしております。

では、続けて質問させていただきます。

雇用機会の拡大について伺いいたします。雇用創出に係る施策の実績をお教えください。

○市民環境部次長　雇用創出に係る施策の実績といたしましては、さきに述べました雇用促進補助金の対象人数が該当すると考えられますが、令和元年度から令和6年度この1月末までの合計人数は86名でございました。これにつきましては本市が把握可能な直接的な施策による人数でございますので、中小企業支援や創業支援に係る間接的な雇用の創出も生じていると考えられております。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

この先ほどお答えいただいた86名という数字は、今のところちょっとほかに比較する数字が見当たらないので、ちょっと評価はできないんですけども、また数年先の結果が出た時点でまた比較評価できるのかと思いますので、取組のほうは引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、8問目に移ります。

この従前の取組だけでなく、新たな取組の実施が検討されているのか教えてください。

○市民環境部次長 冒頭の三橋市長の施政方針にもございましたように、香芝市商工会や地元企業との連携によりますインターンシップなどの充実を目指しまして、地元企業への就職や地元出身者に対する就職支援の実施に向けまして、具体的な事業内容や実施方法の詳細を検討してまいりたいと考えております。

○野口昌史 ありがとうございます。

香芝市内でも理想の就職先があることがベストかもしれませんが、大阪市内から通いやすいところにありますので、三橋市長がよく言われている選ばれる町として、魅力的なまちづくりを引き続きよろしくお願い申し上げます。

それでは、ちょっと話題を変えて質問9に移ります。

香芝市は世帯数は増加傾向にある一方で、人口が減少に転じているということがあるんですけども、それに関する見解についてお教え願えますでしょうか。

○市長公室長 世帯数の増加傾向についてということですが、人口減少の進度以上に世帯当たりの人員の減少や単独世帯の増加が進行していることが要因であると考えております。

○野口昌史 ありがとうございます。

こうやって香芝市内を見てもみると、まだ結構新しい家が建てられたりとか、五位堂駅付近でも新築マンションが建ったりして、一見何か人口が増えてるようには思えるんですけども、実態としては今お答えいただいたように、世帯当たりの人員が減少しているということで、人口全体としては減少しているということが分かるわけでございます。

これはちょっと個人的な見解でございますが、この国におきまして核家族化が言われてもうかなりたっておりますが、あえて時代に逆行して、おじいちゃん、おばあちゃん、孫が3世代で住めるような環境をつくるのも、一つの必要な点ではないかと思えます。もちろん価値観の違い、嫁しゅうとめ問題、様々な困難はあると思いますが、もしこれを上手に克服できる方法があれば、子育てや高齢者のお一人様問題などいろんな問題が解決できるのではないかと思う次第でございます。

次に、大項目の2番の今後の人口ビジョンや取組について伺います。

第五次香芝総合計画前期基本計画の結果分析等を踏まえた上で、第五次香芝総合計画中期基本計画以降にその内容が反映されるものと考えますが、これまでのことを踏まえ、今後

の人口ビジョンをどのように考えておられるかお答えください。

○市長公室長 第五次香芝市総合計画前期基本計画における人口ビジョンでは、社人研が公表します平成27年の国勢調査に基づく将来人口推計が基礎となっておりましたが、令和5年12月に令和2年の国勢調査に基づく将来人口推計が公表され、令和42年時点の本市の推計人口に約1,850人の下方修正が見られましたことから、人口ビジョンの基礎とする将来人口推計を更新するものでございます。

自然増減につきましては、前期基本計画に引き続き、若年層の出産や子育ての希望をかなえられるよう、子育て支援策の充実を図ることで、合計特殊出生率を令和32年までに1.8まで向上させ、維持するよう設定しております。社会増減については、30歳代の転入超過を今後も維持することとし、30歳代の移動率を補正して推計しております。結果としまして、第五次香芝市総合計画中期基本計画における人口ビジョンについても、前期基本計画に引き続きまして、令和42年に約7万人の人口規模を維持することとしております。

○野口昌史 詳しいご説明ありがとうございます。

今から約35年先の人口を約7万人規模に維持するということを想定されているということですが、往々にしてこのような予測は、途中で下方修正せざるを得ない状況になることが比較的多いと思うんですけども、次の質問といたしましては、この立てられたビジョンを達成するためにどのようなことを推進していくのかお教えてください。

○市長公室長 選ばれる町とするためには、あらゆる分野においてきめ細かな行政を展開していく必要があるものと考えておりますが、主な施策といたしましては、都市計画等による規制を適切に緩和することによりまして市内の主要駅前への再開発を促し、人々の集う新たな商業施設の整備を促進するとともに、鉄道に関しては、大阪都心部への所要時間の短縮に向けての協議を申し入れるなど、地域の魅力を向上させる施策を積極的に実施してまいりたいと考えております。

また、市外に向けましても発信していく取組が必要であると考えており、戦略的な広報を展開していくためにも、その強化を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

○野口昌史 ありがとうございます。

この中期基本計画は、詳しくは今後多分委員会のほうで議論されるものだと思いますので、詳しくはやりませんが、またよろしくお願い申し上げます。

それでは、次の質問に移りたいと思います。

今お答えいただいた内容に関しまして、人口ビジョン達成のためには、公共交通サービスや道路改良あるいは幹線道路の整備なども必要と考えますが、まず公共サービスの事業計画についてどのようなものかお教えてください。

○都市創造部長 現在、本市における公共交通サービスであるコミュニティバスの活性化及びデマンド交通の適正化に向けて検討を進めております。特に、コミュニティバスについては、停留所の位置や路線に工夫を加え、運行本数を増加させるなど、さらなる充実を図っ

ていく考えでございます。今後、コミュニティバスを補完するデマンド交通の課題などを含めて、香芝市地域公共交通活性化協議会での協議を重ね、公共交通サービスの活性化に向けた取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○野口昌史 ありがとうございます。この公共交通につきましても、先ほど中山議員が詳しく質疑されておりましたので、詳しくはもうやりませんので。

ちょっと余談になりますが、先日、奈良県主体の自動バスの運転の実証実験が明日香村で行われていたんですけども、私もこれにちょっと興味ありまして、参加してきました。実際に乗って体験してみると、もうここまで来たのかという実感もさせられましたし、あるいはちょっとした課題というのもありましたんで、ぜひ理事者の皆さんも機会があれば体験していただきたいと思います。もしこのような、今後この奈良県のこういう機会があれば、香芝市のほうでもぜひ手を挙げていただければということを要望しておきます。

次に、4番目に移ります。

今度は幹線道路の整備についてお伺いいたします。

○都市創造部長 国道165号香芝柏原改良及び国道168号香芝王寺道路は、一部に課題があるが、ともに事業が進められており、事業が促進されるよう、国土交通省や奈良県に対して継続して要望してまいります。また、本市が施行する都市計画道路整備は、事業を実施中の畑分川線に続いて、穴虫田尻線や尼寺関屋線、近鉄大阪線五位堂駅南側駅前広場を含む五位堂駅前南線の早期事業着手を目指して取り組んでまいります。

○野口昌史 ありがとうございます。

道路に関しましては、奈良県のほうでも今まで以上に予算をつけるようにとお聞きしておりますので、引き続き県や国との交渉をぜひよろしくお願い申し上げます。

また、駅前整備に関しまして、まず近鉄五位堂駅南側広場ということでございますが、いろんな議員さんも指摘していますように、北側もやっぱりいろいろ問題がございますので、可能な限り早期に事業に着手していただけますようご要望しておきます。

以上、ここまでは計画で立てたビジョンについて、前期計画の結果、検証、そして今後についてお伺いいたしました。人口問題という視点からですが、ここからも香芝市の特性あるいは問題点が見えてきたと思います。繰り返しになりますが、また理事者の皆様には釈迦に説法でございますが、香芝市には香芝市の固有問題があり、それを一つ一つ洗い出し、地道に解決策を講じていくことが、人口減少を緩やかに抑えていく方法だと思います。今後も私もいろいろな質問をさせていただくと思いますが、その際にも人口問題という視点をちょっと絡めて考えることが必要ではないかと改めて考えております。

それでは、最後の質問でございます。

香芝市の人口ビジョンは、社人研準拠推計を基に作成されておりますが、市長は以前に、大変難しいかもしれないが、もし可能性があるのなら、人口増に持っていきたいとの内容の発言をされておられました。これに関しては、私のほうも大いに賛同できる内容でございま

す。また、つい先日、冬彩のオープニングの市長のご挨拶のときにでも、またこの同じようなことを力強く発言されており、市長の意気込みが感じられました。

そこで、これまでの質問についての市長の見解と、市長が掲げられた人口増加へのビジョンについて、その実現の可能性と具体的な道筋、そして実現に向けて特に注力されたい施策等がございましたら、お考えをお伺いいたします。

○市長 さきの答弁にもございましたが、人口ビジョンで示すように、人口減少の傾向は否めない状況ではございますが、本市としては中・長期的な未来を見据え、子育て世代を中心に選ばれる町として発展させ、若者世代と高齢者世代、あらゆる世代が相互に支え合っていく活気のあふれるまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

具体的には、令和6年9月に策定した第1次香芝市都市計画再編基本方針にもお示しをいたしました。高度地区による建築物の高さの最高限度や市街化調整区域の見直し等を含め、都市計画等による規制を適切に緩和することによって、市として鉄道の主要駅周辺における再開発、人々の集う新たな商業施設の整備、マンション等の共同住宅や一戸建て住宅の建設を促進することで、主に周辺地域からの流入による人口の増加を目指してまいりたいと考えてございます。

令和7年度におきましては、その一環といたしまして、令和6年12月に策定した近鉄大阪線五位堂駅南側駅前広場整備基本構想に基づく基本設計をはじめといたしまして、都市計画道路や都市公園の整備に取り組むとともに、商工振興や教育、福祉、医療等の様々な施策の充実を目指して、国道の整備、その他の分野におきましても、国、奈良県、関係機関等への働きかけも力強く実施しながら、選ばれる町として発展することを実現させてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○野口昌史 非常に前向きなご答弁ありがとうございます。

中項目2では、このような予測は下方修正せざるを得ない状況になることが比較的多いなんて、ちょっと失礼なことを申しましたが、資料によりますと、社人研準拠で2015におきましては2060年の人口予測は6万6,000人でございます。6万6,000人のところ、香芝市では7万人を基準として考えておられます。これは、香芝市がこの問題に対してしっかりと取り組んでいくというあかしだと思います。これに今の市長が答弁で答えられたその思いが加われば、上方修正も可能でないのかと思っております。仮定の話でございますが、やっぱり人口問題、この人口がちょっとでも増えれば、今ちょっと問題になっている学校再編の問題、空き家問題などいろいろと解決するのではないかと思います。

さて、一旦議員の任期はこれで最後になりますが、香芝市のますますの発展を願い、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。